



「選択の秋」にむけて

夏休みが終り、前期期末試験と増穂際を挟んで、いよいよ後期がスタートします。高校生活にもずいぶん慣れたことでしょう。そして、「選択の秋」がやってきます。これまで進学するにあたり学校の校風を選ぶことはあっても、自分の将来の方向を選んできた人は少ないと思います。

この一歩は、とりかえしのつかないほどの選択ではないにしても、大きな分岐点であることは間違いがありません。イメージや「なんとなく」で選ぶのではなく、自分自身を見つめる良い機会となることを期待します。

夏休みの課題に取り組み、オープンキャンパスに参加して、高校生としての自覚や必要な学習が見えてきたでしょうか？明日のZ会模試、9月の期末試験をひとつの指標として、進路を考えていきましょう。

進路選択を前に



いよいよ文系、理系という来年の授業を選択する時期が近づいてきました。おおまかな選択ではありますが、しかし、おおまかであるがゆえに、重要な選択です。ぜひとも、さまざまな視点から考えてみてください。憧れの職業、現在の成績、好きな科目、興味関心のある分野、趣味や特技…。それらが全て一致した時、迷いのない選択ができるでしょうが、そうでない時には思う存分悩まなければいけません。

もちろん、おおまかな選択ですから、いくらでも方向転換は可能です。いつでもどこからでも軌道修正をすることはできるでしょう。しかし、現役での志望大学合格という時間制限を考えれば、3年次での進路変更は事実上、かなり厳しいものと言わざるをえません。特に、憧れや就職に強いイメージ、あるいは推薦を考えただけで理系にきた生徒が、変更を考える理由は、「数学、物理に挫折したから」になるはずですから、数学が受験で使えず社会を2年生の分から勉強しなければならなくなると考えると、この選択は決定的な意味を持ちます。

そのためには、まず本気で学習してみることが必要です。「やればできる」というのは、大抵の場合、確かに本当ですが、「本当にやれるのか？」を確かめてみないことには始まりません。まず、秋休みにはしっかり自分の将来に取り組んでみるのが重要です。

保護者の方へ

生徒の進路として、何が適切かを考えることは大変難しいことです。たとえば、就職という言葉キーにしても、価値観によってその職業の評価、とらえ方がかわることは言うまでもありません。しかも、それは大抵の場合、「確率」の問題でもあり、さらにその「確率」はお子様のその時の「実力」であるのです。大学入試の情報やデータ、職業のおかれている状況、成績と大学進学に関連など、保護者会のある程度はこちらでも説明ができるのですが、結局は、生徒本人の「現状」と「今後」にかかってくるのです。どの生徒にも伸びしろと期待値があり、だからこそ「必ずこうなる」という答えにはならず、その結果は生徒しだいという面は否めません。

第一に重要なことは、生徒が自立へと向かうこと。つまり、生徒自身が自分の人生に、選択に責任を持ち、自ら切り開くことです。もっと踏み込んでいえば、このことさえできれば、どんな選択でも大丈夫だと考えます。

第二に、だとすれば、対等な大人として、意見や考えをぶつけることです。彼らが社会で成功するには「聞く力」は重要であり、できるだけいろいろな視野からものを見る力が必要です。ともすると大人である私たちは決めつけたり、指示したりしがちです。対等な関係であるということは、私たちの考え方を変えるということでもありません。生徒がただ、わたしたちと違う考え方の選択をしたにすぎないのです。「いうべきことはいった。」というあきらめが

ある程度大事であると感じます。ですから、うまく話す機会を作っていただけると良いと思います。

とはいえ、生徒の考えが浅はかであったり、稚拙であったりすることも容易に想像できます。親子という関係で全てを解決する必要はありませんので、ご希望のある場合は、11月に面談をして解決をしていきたいと思います。保護者の方へのアドバイスとして10月17日の保護者会、そして生徒自身への面談、そして、保護者との面談という流れを考えています。あまり早期に解決を図る必要もありませんが、機会があれば将来や選択について話し合う機会を持っていただければと思います。

生徒へ

最も重要なことは、やってみることです。興味があるのなら、本を読む、実際に見てみる。行きたい大学があるのなら、その大学の問題を解いてみる。行動が最も大事なことです。本気でやってみると実は人は、わずか数日で見切ります。もちろん、数日で見切ることは間違いであることが多い。しかし、人は、いつまでもやらずにそのままにしておいたものを、わずか数日で見切るのです。つまり、やってみれば、その困難さがすぐに身に沁みます。もちろん、困難であることを無意識に知っているから、いつまでもやらなかったわけです。逆にいえば、あなたがたが逃げているものほど、見切るものだということもいえるのです。

だからこそ、まず、やってみることをテーマにしてください。

もうひとつは、ささいなことが、実は大きな選択になるということです。たとえば、理系に進む場合、遅くとも2年生までに古文、漢文を完成させないと、理数科目で時間がいくらあっても足りません。3年時では、国語をあきらめざるを得なくなります。その結果、千葉、埼玉、茨城といった中堅国公立が全て選択肢から消えてしまいます。私立に絞った場合、理科2科目が要求される早慶上智の理工学部の合格率を本校の過去のデータと比較すると、決して高くないことがわかります。つまり、多くの生徒にとって、たかだか「理系なので国語・社会は捨て科目、あとまわし」という意識で、実は志望校が理科大・芝浦工大になったのです。もちろん、芝浦工大をよく知って第一志望にするのはよいことです。しかし、「仕方なく」第一志望にしてほしくはありません。

そのためには、大学受験の仕組み、必要な科目、レベル（問題難度や合格最低点）などを知らないわけにはいかないのです。

大学受験は2年後です。しかし、準備をととのえていくことが、当たり前ですが結果を出すことにつながるのです。文理選択を考えるときにぜひ、大学入試と自分の学習のあり方も考えてみてください。



文理適性検査

8月31日（月）のLHRで文理適性検査を実施します。

自分の希望と適性との関連を調べる検査です。簡単な学力試験と、興味関心のアンケートを合わせた形式です。

6月に実施した「R-CAP」と合わせて、文理選択を考えるための参考にして下さい。

今後の予定

9月

14日(月)～17日(木) 前期期末試験
25日(金) 30分短縮授業・解答返却
29日(火)・30日(水) 授業なし・増穂祭準備

10月

1日(木) 授業なし・増穂祭準備
2日(金) 文化祭準備
3日(土)・4日(日) 増穂際
5日(月) 片付け・終始業式
6日(火)～8日(木) 代休・秋休み
9日(金) スタディサポート
15日(木) 駿台記述模試
17日(土) 保護者会
24日(土) 中学運動会(高校授業なし)



11月

4日(水) 創立記念日(休み)
6日(金) 芸術鑑賞会
9日(月) 進研模試
9日(月)～14日(土) 面談週間(40分授業)



学年目標 『**自他共に尊重し、逞しい心をもって、自ら考え、行動する集団に**』

～ チーム36期 ～

夢実現のための十則

- 夢を持って。ない夢はかなわぬ。目標なく一生懸命やることに酔うな。
- やることを与えられるな。自分のために創り出し、形にして期限を決めよ。
- 他人と関われ。他人を理解しようとしろ。他人に理解される努力をしろ。
- 挨拶をせよ。人に気付き、人に気付いてもらえる。
- 毎日他人に奉仕しろ。心がきれいなら他人も応援してくれる。
- 話を聞く姿勢を作れ。聞く人には教えたくなる。助けたくなる。
- 書け。何度でも書き直せ。書かないことは考えていないこと。
- 自分と戦え。自分は見ている。人と戦うな。気にするな。自分が変われ。
- 大事なことは最初にやれ。優先順位を考えろ。タイミングを逃すな。
- 成功を繰返し、失敗を繰返さぬよう分析しろ。原因を五回さかのぼれ。